

角川まんが学習シリーズ『日本の歴史』訂正箇所

『日本の歴史』公式サイトの「お詫びと訂正」ページにある正誤表をご確認のうえ、貼付ください。

【第1巻/P.6 下】

仙道古墳 (福岡県朝倉郡筑前町)

天乞山古墳 (滋賀県東近江市)

【第2巻/P.63 下】

回復をお祈りして
釈迦三尊像を
造らせております
出来上がったら
法隆寺に納めて
いっしょにお参り
しましょう

【第2巻/P.135 左上】

おお！

【第4巻/P.113 中】

と ば ほうおう
鳥羽法皇

【第5巻/P.207 左上】

さらに
先代の天皇
後深草上皇に
照仁親王と
いう皇子が
いたにもか
かわらず

【第5巻/P.208 中】

91
後宇多

【第5巻/P.223 左上】

一二七四
一遍が時宗を開く
元の軍が九州北部に攻めよせる (文永の役)

【第1巻/P.182 左下】

当時の古墳には
埴輪という
素焼きの焼き物が
置かれていた。

【第1巻/P.185 右上】

いいから
埴輪を並べろよ

【第2巻/P.154 右上】

今の問題は
唐にならって
造った和同開珎が
なかなか使われない
ことです

【第3巻/P.2 左上】

新しい政治を行うため、桓武天皇は天武天皇の皇統の都で仏教の力が強い平城京からはなれることを決意したんだ。784年には現在の京都府南部にある長岡京に都を移したが、不吉な出来事が続いたため、長岡京北東に平安京を造り、新しい都としたんだよ。

【第1巻/P.132 中右】

このように動物の骨を焼いて
行う占いを「骨卜」
かめの甲羅で行う占いを
「亀卜」とよぶ。

【第1巻/P.115 左上】

中国の歴史書『漢書』地理志には
紀元前一世紀ごろの日本について
「朝鮮半島北部には楽浪郡がある。
楽浪郡の海のはるか向こうには
倭という民族がいて、百以上の
国に分かれている」とある。

【第4巻/P.137 左下】

この え てん の う
近衛天皇
(九男)

【第2巻/P.57 右上】

これから
高句麗を攻めるのに
今倭国と争うのは
得策ではありません

【第3巻/P.30 1コマ目】

しかし七八〇年
長年の朝廷の支配に不満を
いだいていた、蝦夷の族長
伊治麻呂が反乱を起こした。

【第5巻/P.207 左下】

後嵯峨上皇が
跡継ぎ問題を
幕府に任せて
死んだ後

【第4巻/P.104 中】

白河法皇が始めた
院政という仕組みは、
鳥羽上皇から後白河上皇と
その後百年以上も続き、

【第5巻/P.110 左上】

こうして義経は死に
頼朝はこの後大軍で
奥州を攻め落とし
泰衡も死んだ。

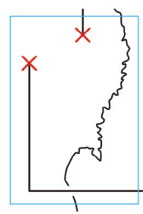
【第2巻/P.39 左上】

* 隋…中国の王朝。分裂していた中国を五八九年に統一した。

【第5巻/P.53 中左】



【第4巻/後ろ見返し右 中段】



【第7巻/P.126 右中】

領主の地位を
ゆずるとしない
小鹿範満を攻め

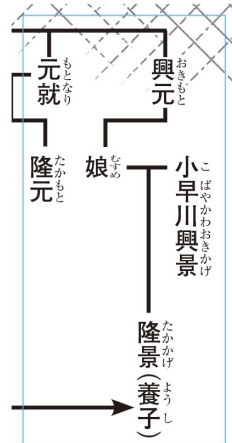
【第7巻/P.126 左中】

小鹿家ごころぼし
竜王丸を名実ともに
今川氏の当主とした

【第7巻/P.124 左中】

それならば同じ
今川一族である
小鹿範満殿に
継いでもらうのが
よいのではないか

【第7巻/P.148 左上】



【第8巻/P.172 左下】

わしの死後拾が
確実に跡を継げるような
仕組みをつくることにした…！

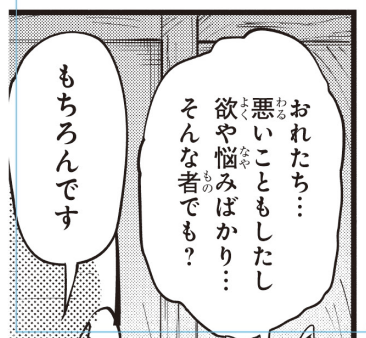
【第7巻/P.124 左下】

跡継ぎが
小鹿範満に決まり
かけたところに

【第7巻/P.6 右中】

応仁の乱以後、時代は
各地の戦国大名が争う
乱世となっていたよ。

【第5巻/P.171 左下】



【第8巻/P.173 左中】

家康殿は律儀な男じゃ
拾をもち立てて
くれるに違いない

【第8巻/P.68】

* 一乗谷…現在の福井県福井市にあった朝倉氏の本拠地。

【第8巻/P.173 右下】

必ず与えられた役を
守り拾につくすと
ちかつかれ

【第8巻/P.160 左上】

利休と親しい
細川忠興などが
必死に助命を
嘆願するが

【第7巻/P.134 左下】

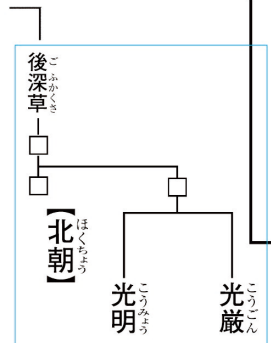
氏親にとつて
早雲は
伯父であり

【第7巻/P.125 中】

小鹿殿が
代行されるのが
道理では
ないでしょうか！

【第7巻/P.11 下】

【第6巻/P.119 左下】



応仁の乱により、幕府や守護大名の力が弱まり、
下の者が上の者にうち勝つ「下剋上」が起こりはじめる。

【第10巻/P.20 左上】

産業の中心は米だったが農家では木綿・紅花などの商品作物が作られ、金物業なども発達した。それらは各地の特産品として全国に行きわたった。

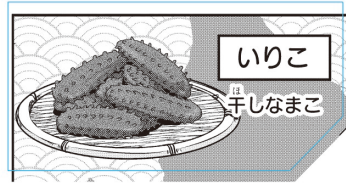
【第10巻/P.61 上】

なんでも儒学を重んじて家臣の助言があったんだと

【第10巻/P.217 左下】

百姓
約84%

【第9巻/P.170 中】



【第9巻/P.171 左上】

エソ錦

【第9巻/P.5 下段】

東照宮は全国にある！

家康を祭っている神社を「東照宮」というよ。家康は、自分の遺体は久能山（静岡市）に埋葬し、一周忌を過ぎたら日光に神として祭るように遺言したんだ。久能山東照宮は秀忠、今の日光東照宮は家光によって建てられたものだよ。

【第9巻/前見返し左】

朱印船貿易

【第9巻/P.2 右下】

広さは約115万㎡！

【第8巻/P.174 上】

一五九六年拾は四歳で元服豊臣秀頼となる。

【第8巻/P.173 右上】

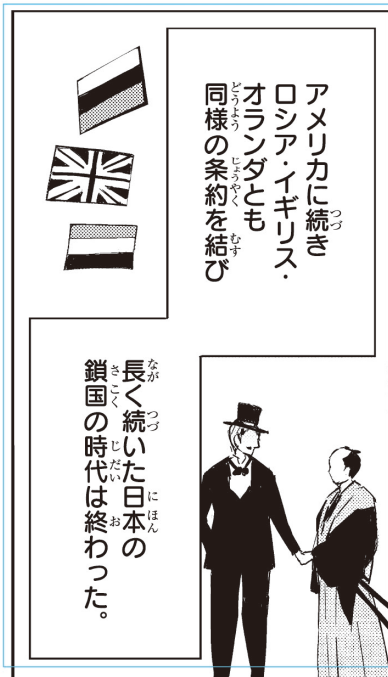
おぬしをふくめ
五名にたのむ

【第9巻/P.7 左中】

江戸幕府が直轄領の長崎においた奉行所で、長崎奉行が治めたんだ。出島のすぐそばにあって、オランダや清との貿易の管理もしていたよ。

【第9巻/P.154 左下】

【第11巻/P.86 左下】



【第11巻/P.64】

六月三日
浦賀（神奈川県）

【第10巻/前見返し/田沼意次】



【第10巻/P.2 右上】

平安時代の『伊勢物語』を題材にした尾形光琳の作品。金箔の屏風に、青と緑だけでえがいているのに、奥行きを感じさせる技術もすごい！国宝に指定されているよ。

【第11巻/P.96 左下】

福井藩主
松平慶永（春嶽）

【第11巻/P.66 右下】

浦賀奉行
戸田氏栄



【第12巻/P.182 左下・右中】

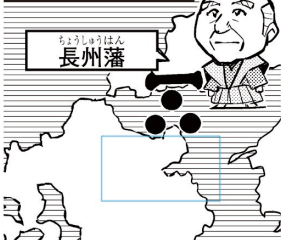
【第11巻/P.166 上】

石田三成

【第11巻/P.101 右下】

徳川家康

【第11巻/P.120 左上】



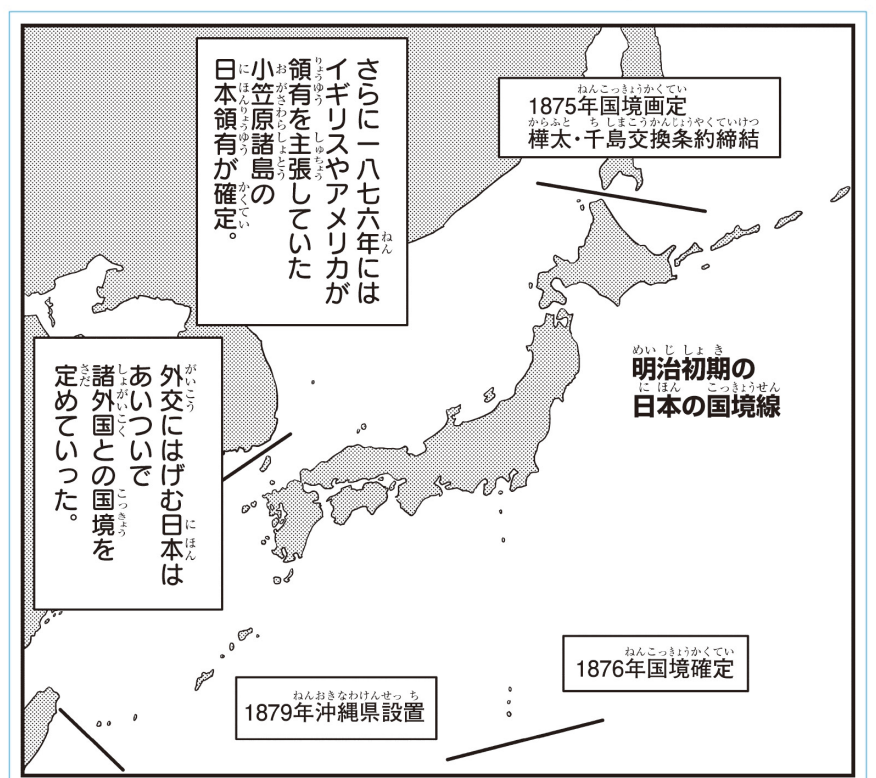
【第11巻/P.122 右下】

松平慶永様
には隠居を
命じられたとか

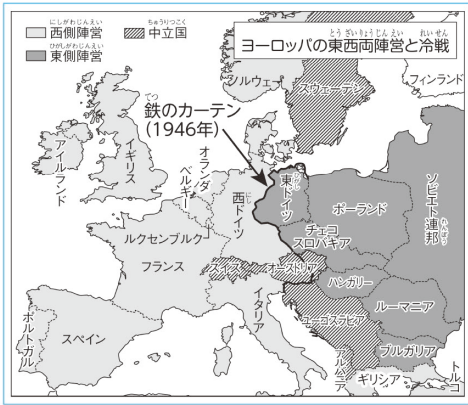
【第11巻/P.3 中】

1837年、何も手を打たない大阪町奉行におこった大塩は、弟子たちとともに反乱を起こしたよ。反乱軍は、じょじょにふくれ上がり、総勢300名に。「救民」の旗をかけた戦ったが、半日でしめられ、大塩は自殺してしまったんだ。

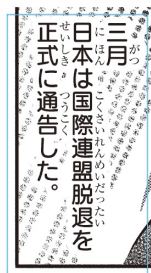
一八五九年十二月
水戸藩



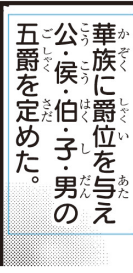
【第15巻/P.220 左下】



【第14巻/P.183 左下】



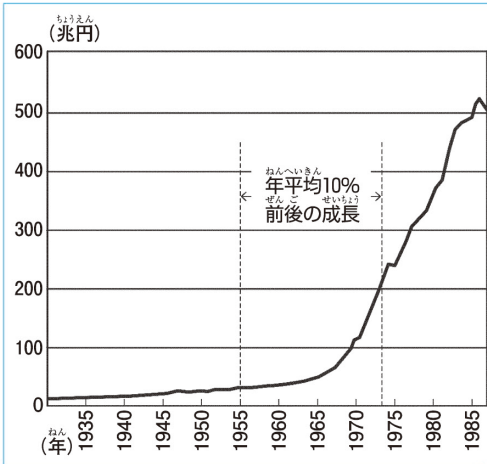
【第13巻/P.40 左上】



【第12巻/保護者の方へ 中】

こうしてできた明治政府は、倒幕の中心となった薩長土肥の藩士たちが主導権を握ります。条約改正のため岩倉使節団が欧米を訪問している間、西郷隆盛を中心とする留守政府は、学制・徴兵令などの改革を進めていき、朝鮮への出兵を検討していました。帰国した岩倉使節団は、内政優先を唱え、朝鮮への対応をめぐる征韓論争が起こり、西郷たちは政府をはなれます。

【第15巻/P.123 左上】



【別巻まるわかり図鑑/P.179 下】

医学の発展に大きな功績を残した細菌学者。1歳半のころ左手に大やけどをする。アメリカで研究し、多くの病原体を発見するが、アフリカで研究中の黄熱病にかかり亡くなった。

【別巻まるわかり図鑑/P.200 下段】

日本の魔法のような「陰陽道」という不思議な術で、藤原道長などの屋敷跡に建てられた安倍晴明の境内にある井戸は、病気を治すといわれているよ。

【第14巻/P.180 中下】

撃った男を
連れてこい…
聞かすから…
よく話して

【第16巻/P.219 上段】



【別巻よくわかる近現代史第1巻/P.222 上】

一九二九
世界恐慌が起こる。

【別巻まるわかり図鑑/P.181 上段】

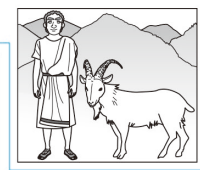
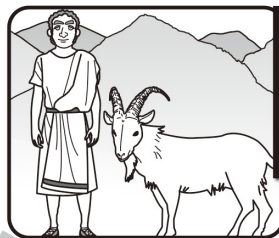
いてうや市川房枝らは女性の参政

【第14巻/P.156】

2問目 世界最古のマスクと考えられる古代ローマのマスクは何のために作られたもの？

【第16巻/P.218 上段】

マスクの材料は山羊のぼうこう!?
古代ローマの鉱山労働者たちは山羊のぼうこうを使ったマスクで粉塵をよけていた。



【第16巻/P.218 下段】

その名も「呼吸器」

【第14巻/P.156】

※第16代首相も務めた。

【第15巻/P.216 左下】

足踏み式のミシンだよ

※可愛岳…現在の宮崎県延岡市にある山。険しいがが多い。
※城山…鹿児島市中央部にある山。近くには私学校があった。

【第15巻/P.5 左下】

▲電気自動車

【第15巻/P.33 上】



【第12巻/P.165 右上】

提出し
「民撰議院設立の建白書」を

【第12巻/P.145】



【第13巻/P.182 中下】



【第14巻/P.56 左上】



【第14巻/P.32 下】

※軍閥…軍隊を背景に政治的権力を手にした軍上層部の勢力。

【第14巻/P.192 中】

※1925年、ファシスト党の独裁政権が成立。

【第14巻/P.197 左上】

※侍従…宮内省の一部局で、天皇・皇后の側近として事務をつかさどった。

【第16巻/P.215 下段】